

2024年7月6日の記事

【予告】ミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催します

本学の8月のオープンキャンパスの開催に合わせて、当館の自然系展示室内で絶滅危惧種をテーマとした新しいミニ展示を開始することになりました。展示期間中は8種9点の絶滅危惧種の標本を展示する予定です。

このミニ展示の準備のため、現在自然系展示室の一部を閉鎖しています。また8月からは自然系展示室全体を閉鎖とさせていただきます。

ご来館の際はその点ご留意の上お越しく下さい。

[展示タイトル]

絶滅危惧種展2024

[会期]

令和6年8月17日(土)～令和6年10月6日(日)(予定)

[開館情報]

- ・ 開館日時 火曜日～土曜日 10:30～17:00(最終入館および物販は16:30まで)
- ・ 休館日 日曜日・月曜日・祝日、年末年始、大学の定める休日(その他臨時休館あり)
- ・ 入館料 無料
- ・ 入館方法 事前予約制

※ 事前の告知なく開館日時や休館日、入館方法等が変更となる場合があります

※ ご来館前に必ず「来館案内」をご確認いただき、ご来館の際は来館案内ページ内にある「個別見学予約フォーム」または「団体見学予約フォーム」から事前にご予約をくださいますようお願いいたします

[会場]

日本獣医生命科学大学附属博物館

2階 自然系展示室

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #絶滅危惧種 #レッドリスト

2024年7月6日の記事

■【お知らせ】ミニ展示「絶滅危惧種展 2024」開催（予告）

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20240703-01.html/>

展示の詳細はこちらをご覧ください

■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

見学のご予約はこちらのページからお願いいたします



① 展示予定の標本：マレーセンザンコウ

② 展示予定の標本：タイマイ

【活動日誌200】学芸員課程実務実習：植物標本・昆虫標本の作成2

今年度の学芸員課程における学内実習も終わりが近づいてきました。本日の記事では馬谷原先生による2回目の実習の様子を紹介します。

馬谷原先生による実習では、植物標本と昆虫標本の作成方法を教えていただきます。1回目の実習では植物の採取から乾燥作業までと、チョウの展翅を行いました。2回目の実習ではこれらに続く作業を行いました。初回に採集した植物は、根の部分の泥などを洗ってから整形して紙に挟んだ状態で学生各自が自宅に持ち帰り、2回目の実習までの間にしっかりと乾燥させてあります。実習当日は、台紙に標本を固定し、情報を記入したラベルを添えました。チョウの標本にも情報を記載したラベルを添えてドイツ箱に刺すところまで体験してもらいました。

今年度の学内実習は資料の梱包をテーマとした実習を残すのみとなりました。最後の実習の様子もFacebookでご紹介いたします。

(学芸員 石井)

#博物館実習 #日本獣医生命科学大学 #博物館

■【活動日誌195】学芸員課程実務実習：植物標本・昆虫標本の作成1

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid02dUmqbrth17AevDNi1JxJEgEm4t1LHT3VpvF13u6CFfXimjbPffnYDDBCaHws4qpal>

馬谷原先生による1回目の実習の様子はこちらの記事にて紹介しています。

2024年7月11日の記事



① 乾燥させた植物標本を台紙に貼り付ける様子

② 作成した植物標本

③ チョウの標本にラベルを取り付ける様子

④ 作成した昆虫標本。希望した学生には各自が持参した容器に標本を固定し、持ち帰ってもらいました。

【活動日誌201】同窓会の代議員会にお邪魔しました

先日、本学の同窓会の理事会と代議員会が学内で開催され、代議員会の途中でお時間をいただき、博物館の宣伝をさせていただくこととなりました。

宣伝の効果があってか、当日は卒業生の方が何名も展示室をご見学くださいました。また、宣伝の前後に所有している貴重な資料についての寄贈のお申し出や、その他の博物館の活動に関わる情報についてもご提供いただきました。

残念ながら現在は展示準備のため展示室の一部を閉鎖していますが、今年は夏のオープンキャンパスに合わせて開始する「絶滅危惧種展2024」を皮切りに、秋・冬のそれぞれに新たな展示を開始する予定となっています。卒業生の皆様には、新たな展示が公開された際にぜひ改めてご来館いただければと考えております。

卒業生の皆様のご来館をお待ちしております。

(学芸員 石井)

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #同窓会



① 会場の様子①

② 会場の様子②

③ 入館方法を説明するスタッフの様子。当館は通常事前予約制となっていますが、同窓会の関係者が大学にお集まりになると聞き、特別に予約なしで見学ができるように準備をしていました。

【活動日誌202】資料の定期点検を実施しています

当館が活動拠点としている一号棟は、明治時代に建てられた麻布区役所庁舎を移築した建物です。国の登録有形文化財として認められた貴重な建物ですが、麻布区役所時代から数えると築115年が経過した木造2階建ての建物には隙間が多く、資料害虫の侵入を完全に防ぐことは困難です。そこで、当館では定期的に展示資料の点検を実施し、害虫による被害の蔓延を予防しています。

先日は博物館を臨時休館にして、自然系展示室で展示している剥製の点検を行いました。自然系展示室の剥製の多くはケースに入れずに「露出展示」の状態で見せているため、長期間展示を続けると少しずつホコリがたまってしまいます。剥製の体の表面についているホコリを刷毛で払いながら、資料害虫の痕跡がないか1点ずつしっかりとチェックをしました。残念ながら害虫による被害を受けている可能性がある剥製は、バックヤードに回収し、一部は脱酸素処理を実施しています。

脱酸素処理では、気密性の高い袋の中に対象となる資料と脱酸素剤を入れて封をします。一定の期間脱酸素状態に置くことで、資料害虫を殺虫し、資料についたカビも不活化することができます。

(学芸員 石井)

資料管理 # 日本獣医生命科学大学 # 博物館

■【活動日誌136】本の防虫・防カビ処理

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid0JPjb4gsNUpjZGTGp7FUP3FaR8zTXWjrimj17xutCLtQoDkjjhv7t2Pj4dfRRh7FUI>

脱酸素処理についてはこちらの記事で紹介しています



- ① 資料の状態を確認しながら、剥製についているホコリ等を小さな筆を使って取り除いている様子。
- ② 古い剥製は台の部分や止まり木などからも細かい破片が落ちてたまったりするため、保管室から外に出し、エアダスターでホコリや木くずなどを取り除いています。

【活動日誌203】展示の片付けと新たな展示の準備

先日の記事でも紹介した通り、8月17日から新たなミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催いたします。

ミニ展示の会場となる自然系展示室では、6月まで企画展「キリンが来た道～麒麟児 長次郎の歩み～」を開催していました。現在は展示室の一部を閉鎖し、企画展の片付けとミニ展示の準備を進めています。

これからミニ展示が始まるまでの間、ミニ展示で展示する剥製を紹介する連載記事をfacebookに掲載する予定です。どうぞお楽しみに！

#絶滅危惧種 #日本獣医生命科学大学 #博物館

■【お知らせ】ミニ展示「絶滅危惧種展2024」開催(予告)

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20240703-01.html/>

ミニ展示の詳細はこちらをご参照ください



① 現在の自然系展示室の様子：展示室の一部をパーティションで区切り、展示の片付けと準備をしています。

② ミニ展示の予告チラシ

【活動日誌204】団体見学を受け入れました

当館では団体の皆様のご見学を受け入れています。先日は放課後等デイサービスウイング調布から15名の方が来館されました。

団体見学の場合、ご要望があった場合は博物館スタッフが解説を行うことが可能ですが、今回は解説不要と事前にご連絡をいただいたため、自由に館内をご見学いただきました。身近な野生動物の剥製を展示している自然系展示室が特に人気だったようで、熱心に剥製を観察されていました。

団体見学の場合、来館希望日の3週間前までのお問い合わせをお願いしています。都合により開館日であっても団体見学をお受けできない場合がございますので、団体見学をご希望の方はまずは当館までご相談ください。

(学芸員 石井)

#日本獣医生命科学大学 #博物館

■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

団体見学の詳細は「来館案内」ページをご参照ください



- ① 見学のお見送りをするスタッフ：大学の入口を集合場所とし、簡単な説明ののち自由に見学をしていただきました
- ② 当館で配布している塗り絵教材をご活用いただきました

【絶滅危惧種展2024-1】シラコバト

日本獣医生命科学大学附属博物館では8月17日からミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催します。ミニ展示にあわせて、facebookを活用して展示資料の詳細情報をご案内します。今回のテーマは「シラコバト」です。

〈解説〉

シラコバトはハト目ハト科キジバト属の鳥類の1種です。全身は淡い灰色で、首の横から後ろ側にかけて黒い羽が線上にあるのが特徴です。

世界的にはヨーロッパからアフリカ北部、アジアなどに広く分布し、IUCNの評価では近年個体数が増加している種とされています。

日本にいるシラコバトは江戸時代に外国から輸入されたとされる説がありますが、元々生息していたという説もあり、現在日本では埼玉県を中心に関東周辺でわずかに見られるのみとなっています。IUCNの評価では日本のシラコバトは移入種とされていますが、環境省は日本の個体群を亜種シラコバトとして評価し、EN(絶滅危惧IA類)にカテゴリーしています。また、群馬県、茨城県、千葉県などでも絶滅危惧種に指定されています。

シラコバトは戦後の乱獲により個体数が減少し、わずか20羽ほど残っていた越谷市内のシラコバトが1956年に国指定の天然記念物となり、埼玉県内だけでなく、地域を定めずに国内では捕獲が禁止されています。

今回の「絶滅危惧種展2024」では、所蔵しているシラコバトの卵を展示します。この卵は皆さんもよくご存じのウズラの卵とほぼ同じくらいのサイズで、キジバトの卵と同じような模様のない、白い卵です。

シラコバトは、埼玉県内の複数の動物園で飼育されていますので、どなたでも見ることが出来ます。

■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

団体見学の詳細は「来館案内」ページをご参照ください

2024年7月27日の記事

〈展示資料詳細〉

[和名](亜種)シラコバト

[学名]Streptopelia decaocto decaocto

[標本の種類]卵殻

[サイズ]33×25×28(縦×横×直径 mm)

[レッドリスト評価]

EN(環境省レッドリスト2020)

EN(埼玉県レッドデータブック動物編2018)

EN(茨城県版レッドリスト(動物編)2016年改訂版)

EN(群馬県の絶滅のおそれのある野生動物リスト(2022年改訂版))

A: 最重要保護生物(千葉県レッドリスト動物編(2019年改訂版))

※千葉県レッドリストでは独自のレッドリストカテゴリーを用いています。

#絶滅危惧種 #日本獣医生命科学大学 #博物館

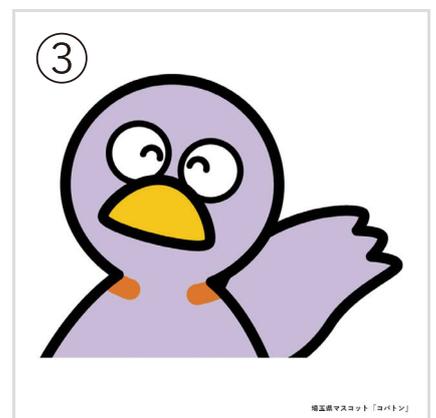
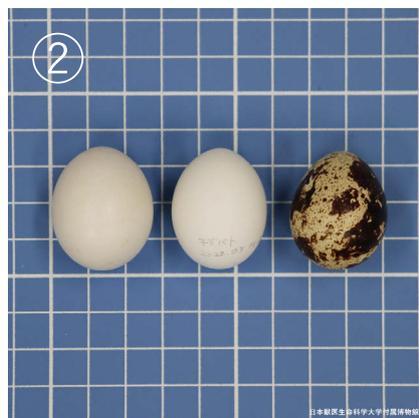
〈参考〉

・国指定天然記念物 越ヶ谷のシラコバト

<https://www.city.koshigaya.saitama.jp/citypromotion/rekisibunka/bunkazai/sirakobato.html>

・越ヶ谷のシラコバト：国指定文化財等データベース

<https://kunishitei.bunka.go.jp/heritage/detail/401/3132>



① 展示標本① シラコバトの卵

② 左から、シラコバトの卵、キジバトの卵、ウズラの卵

③ 埼玉県のマスコット「コバトン」は、シラコバトをモデルにして作成されています。